

すまいる通信

令和6年6月14日

拠点校 稲城市立南山小学校

校長 山本 美早

担当 荒木・島田・井上

1学期も残り1か月となりました。子ども達は新しい学級で日々、力を伸ばし、落ち着いて過ごしている様子がみられます。今回のすまいる通信では、すまいるルームでの支援を利用していた卒業生の保護者の方からの手紙を紹介させていただきます。



すまいるルームに入室して

「すまいるルームを利用してはどうか」と先生より提案をいただいた時、実は少し戸惑ったことを覚えています。自分の子供が支援の対象なんだ、という現実を突きつけられたような気がしたのです。

そんな親の気持ちをよそに、個別・集団での活動をすまいるルームで始めた子供は、目に見えて変わっていきました。先生方はじっくりと子供の話を聞き、向き合ってくださいます。また教室での子供の様子も、写真を交えながら保護者に詳しく報告してくださいます。集団活動では、子供達同士で意見交換をしたり、ゲームをしたりと楽しい時間を過ごしていました。

こうした活動のおかげで、刺々しかった子供自身も少しずつ学校での居場所や自己肯定感を取り戻すことができたと感じています。担任の先生とも連携をとってくださるので安心ですし、他の子供達もすまいるルームに通っていることを特別視しないで付き合いくれました。

学校の中に子供の居場所があることは、子供にとって何より大きな安心材料になります。居場所を作り、いつも見守ってくださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

すまいるルームでの支援は学級での生活がより楽しくなることを目指し、行われるものです。身近に感じてもらえるよう、学習内容や授業の様子などを紹介していきたいと思えます。

すまいるルームの特徴

①少人数での学習	②週に1～2時間の取り出しによる学習
③学習の遅れを補充する場所ではありません	④原則1年間の指導期間

学校生活でのこうした困りごとが対象となります

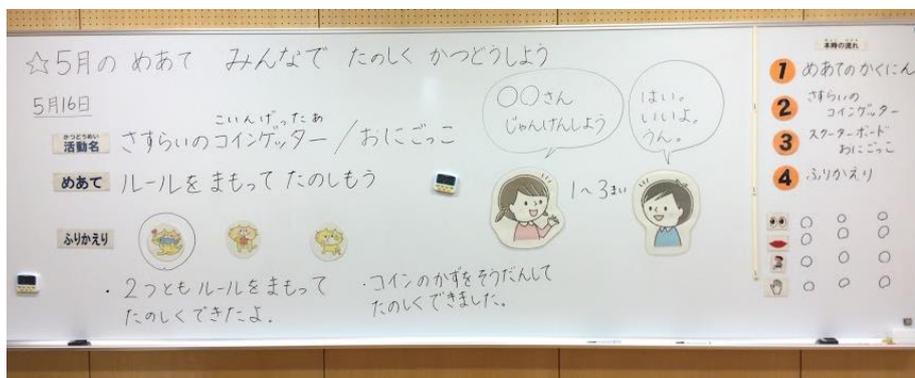
- | | |
|----------------------------|--------------------|
| □手先や運動が極端に苦手・不器用 | □落ち着きがない |
| □漢字は読めるけれど、形を捉えて書くことが難しい | □すぐに手が出てしまう |
| □相手の気持ちを考えることが難しい | □マイペースで、全体から遅れてしまう |
| □家では平気なのに、学校や人前に出るとうまく話せない | □人の話を聞くことが苦手 など… |

誰しも、このようなことを感じることはあると思いますが、本人の困り感に応じて必要な対処法を一緒に考え、学級の中で安定した気持ちで過ごせるように学習する場所がすまいるルームです。

学習の様子

少ない人数でその子に合った指導を行っています。グループ学習では、グループの児童の課題に合わせて活動を考えられています。「楽しみながら」苦手なことにもチャレンジできる活動を心がけています。

<小集団学習（2人～6人）>



話し合いのやり方や勝ち負けの受け入れ方、気持ちの表現方法などを実際にグループで活動しながら練習します。

学習内容の例

- ・上手に伝えよう
- ・勝っても負けても楽しもう
- ・お互いの良さを伝えよう

<個別学習（1対1）>



一人一人の課題に合わせて行います。プリントだけでなく、バランスボールなどの運動器具やボードゲームを使うこともあります。



よくあるご質問

Q: すまいるルームに入りたいと申し出をしたら、すぐに授業が始まりますか？

A: いいえ。すぐには始まりません。入室は4月または10月となります。まずは担任にご相談ください。

Q: すまいるルームに入ることで、クラスのみならず何か言われたりしませんか？

A: すまいるルームの学習も大切な学習であると学級全体に伝える啓発授業を行っています。適切な支援を受けられる環境を整えていきます。

Q: 進学に影響しますか？

A: すまいるルームに通ったことを伝えるのは任意となりますので、特に影響はありません。ご家庭が進学先でどのような支援を求めるかによってご判断いただければと思います。

気になることがある方は、7月の面談時に担任にご相談ください。